




推薦調書（実装部門）

表彰区分	市	推薦都道府県	和歌山県
地方公共団体名	紀伊半島外国人観光客受入推進協議会（橋本市、田辺市、新宮市、かつらぎ町、九度山町、高野町、白浜町、那智勝浦町）		
取組名称	紀伊半島における交通・観光のデジタル化事業		
連携自治体、企業、団体等	南海電鉄株式会社、南海りんかんバス株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、龍神自動車株式会社、熊野御坊南海バス株式会社、明光バス株式会社		
デジタルを活用した取組の概要 （デジタルを活用した取組の全体概要と解決した個別課題の具体的な内容）	（種類）	①	（左記が①の場合 の分野） 観光
	<p><b>【デジタルを活用した取組の全体概要】</b></p> <p>・「高野山・熊野」という二つの世界遺産エリアにて、共通のシステムにより、交通・観光等の多様なコンテンツを含む MaaS のサービスを提供することで、スマートフォン一つで紀伊半島を周遊観光できるような環境を整備する。</p> <p>具体的には、交通、観光施設及びアクティビティのデジタルチケットをスマートフォンで予約、決済、利用を可能とする Web アプリを構築。チケット購入者には、地域の飲食店や土産物店等で利用可能なデジタルクーポンを付与。交通・施設等での利用時には、スマートフォンの画面上にチケットを表示させ、改札等で読み取り、あるいは受付やレジ等で提示（施設は目視で確認）する。サイト上で、地図アプリ等とも連動させ、各施設等への経路検索を可能とする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p><b>【実施に至る経緯・動機】</b></p> <p>・これまで、「高野山」を中心に交通・観光のデジタル化の実証事業を実施しており、令和 2 年度には、高野山内におけるバスや観光施設のチケット、飲食店や土産物店等のクーポンをデジタル化し、予約、決済、利用をスマートフォン一つで可能とする Web アプリを構築した。続く令和 3 年度には、対象エリアを高野山の周辺地域に拡大するとともに、鉄道やレンタサイクル、レンタル EV 自動車、観光タクシー等のチケットもデジタル化の対象に加え、MaaS としての実証実験を行った。</p> <p>令和 4 年度は、これまでの実証実験における課題を踏まえ、前記システムの改善や機能の向上を図りながら、「高野山」にて MaaS サービスの実装に向けた取組を進めるとともに「熊野」エリアにおいても、地域の交通事業者や</p>		

	<p>観光施設等の参加を募りながら、高野山の事業と共通のシステムを利用する形で MaaS 事業を展開する。この際に、高野山と熊野間を結ぶ交通を販売対象に加えることで、2つのエリアで間断なく利用できるようなサービスとし周遊促進を図る。</p> <p><b>【解決した課題の具体的内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紀伊半島においては、二次交通事業者が数多く存在している状況があるが、各サービスの連携は限定的であり、地域外から来られる観光客にとって、目的地に到達するための適切な交通手段の把握が難しくなっている、また、発売箇所が限定されている商品も多く、現地でしかチケットを購入できないという課題があった。</li> </ul> <p>加えて、今後のインバウンド回復後に向けて、対象エリアの交通や観光施設におけるキャッシュレス化の取組を推進させることが必要である。さらに、ウイズコロナ時代においては、安心・安全な旅行・観光を楽しんでいただくために、できる限り接触機会を減少させるような取組が求められている。</p> <p>これらの課題に対応するために、地域の関係者にも事業へ参画いただきながら、利便性の高い交通・観光の予約・決済システムの構築・チケットのデジタル化を進めるとともに、事業を通じて、スマートフォン一つで紀伊半島を周遊できるような環境を整備することにより、観光周遊の円滑化・消費の拡大を図る。</p>
<p>デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）</p>	<p><b>【取組のアウトプット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チケットの購入数やクーポン等の利用数：2年度 116 件、3年度 2,564 件</li> </ul> <p><b>【取組のアウトカム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーザーへのアンケート等の実施により、満足度を調査し、サービス改善に活かすための指標（良かったと回答した割合）</li> </ul>
<p>本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<p>高野・熊野という2つの世界遺産エリアは、その精神的・歴史的魅力を背景に、ともに欧米豪を中心とする外国人観光客に人気の観光地であったが、複数の交通事業者が存在し、外国人からは利用が難しい状況にあった。このため、令和2年に紀伊半島外国人観光客受入推進協議会を設置し、県、市町、複数の交通事業者等が連携して、二次交通の統一的なインバウンド対応等に取り組んできたところ。今回は、この連携枠組を生かし、広域的な MaaS 事業の展開を図ろうとするもの。</p> <p>加えて、交通事業者や観光施設等のサービス参加者と利用状況に関する情報を共有するとともに、サービスの課題を汲み取る場を設けることで、システムの改善につなげていく。</p>
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年5～6月：事業の仕様検討、関係者との協議、サービス参加働きかけ</li> <li>・4年7月：システム開発ベンダーと契約（予定）</li> <li>・4年9月：サービス運用開始（予定）</li> </ul>